

問 37

次のうち、画像にあてはまるものはどれか？正しいと思われる解答群を番号で答えよ。



- a. アルコール性肝硬変の可能性が高い。
- b. 腹水を認める。
- c. 甲型の結節を認める。
- d. 肝細胞癌が否定しきれない。
- e. 門脈圧亢進症の所見を認める。

1 a, b , 2 c, d, 3 a, d, 4 b, e, 5 c, e,

解答 2, c, d,

- a, 本症例は大きな再生結節（1cm程度）が認められる肝硬変症の症例である。
HBS ウィルスによる肝炎が進行した場合に、頻度高く認められる肝硬変症である。
アルコール性肝炎の場合は、再生結節が小さく、脂肪肝を伴っていることが多い。
- b, 腹水を反映する無エコー域は認められない。
- c, 表記どおり。（小さい結節がある場合は乙型が考えられる。）
- d, 全体に肝細胞癌が発生してびまん型や、再生結節の一部が癌化している可能性は否定できない。（腺腫様過形成との鑑別も困難）
- e, 門脈域が明瞭に描出されていないので断言できない。
通常はこのような結節を有する肝硬変の場合、門脈は縮小や拡大等径の不同が観察されることが多い。

最終診断：肝細胞癌（基礎疾患肝硬変）

問 53

回盲部付近の水平走査で得られた画像です。
次のうち、画像にあてはまるものはどれか？
正しいと思われる解答群を番号で答えよ。



- a. 周囲リンパ節腫大が認められる。
- b. 血流情報は壊疽性と蜂窩織炎性の鑑別には役立たない。
- c. 周囲脂肪織炎が認められる。
- d. 短軸径は10mm程度でカタル性である。
- e. 糞石が存在するようである。

1 a, b , 2 c, d, 3 a, d, 4 b, e, 5 c, e,

解答 5, c, e,

a, リンパ節は写っていない。

b, 壁内に血流が多く認められる場合は壊疽性でない場合が多い。

c, 周囲のエコー輝度は高くなっており、脂肪組織への炎症の波及が示唆される。

d, 短軸径はカタル性かどうかを判断する基準にならない。

層構造の崩れや血流情報の方が重要。この症例では糞石が存在するため、その部位での壊死が激しく、壊疽性の虫垂炎と診断された。

e, 右端の盲端部分に存在するようである。

病理診断：壊死性虫垂炎